

AIの普及と経済的余剰：2026年の視点

AI Diffusion & Economic Surplus: Perspectives from 2026

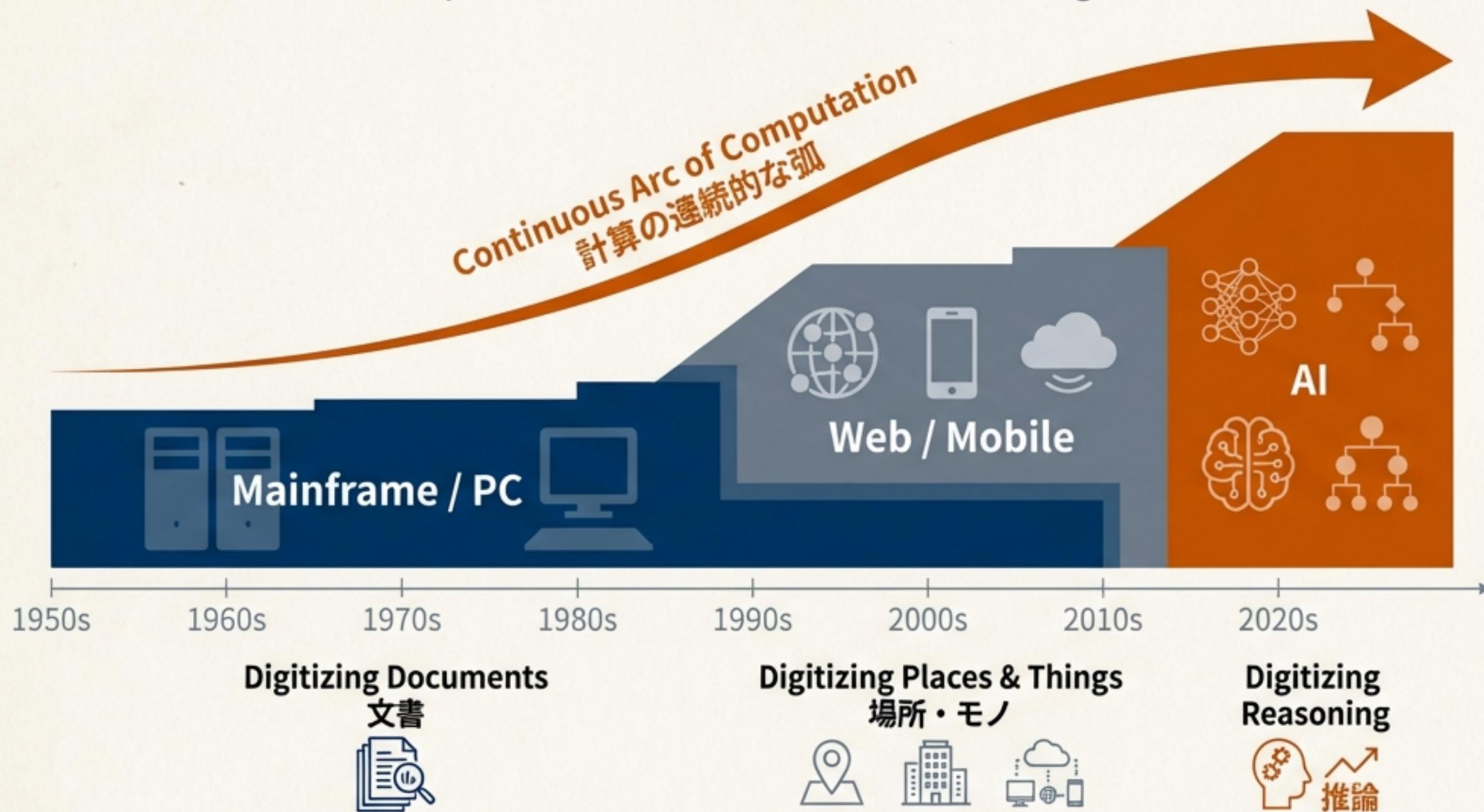
プラットフォームの転換、組織の変革、そして世界的公平性について

サティア・ナデラとの対話より

「普及 (Diffusion) こそがすべてだ。トークンを使って生産性のカーブを曲げ、あらゆる場所に余剰を生み出すことこそが目標である。」

コンピューティングの連続的な弧：アーティファクトから推論へ

A Continuous Arc of Computation: From Artifacts to Reasoning



概念 (Concept):

AIは過去の断絶ではなく、世界をデジタル化するプロセスの延長線上にあります。

シフトの本質 (The Shift):

- これまでの時代：情報をデジタル形式で整理する。
- AIの時代：デジタル化された情報を「推論 (Reasoning)」し、意味を理解する。

ソフトウェアという**可鍛性** (malleable) のあるリソースを使用し、**限界費用**を抑えながら、**世界に対する洞察と予測能力**を構築します。

エージェントの進化：「知の自転車」から「守護天使」へ

Metaphor Shift



スティーブ・ジョブズ (PC時代) - 知の自転車 (Tool)

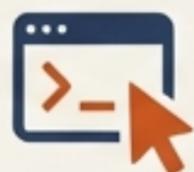
人間が操作する受動的な道具。



ラジ・レディ (AI時代) - 守護天使 (Agent)

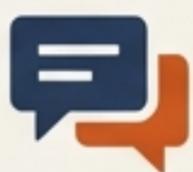
認知の増幅器、自律的な支援者。

Case Study: Software Engineering Evolution



予測 (Prediction)

次のコードを予測
(GitHub Copilot)



フロー (Flow)

対話による問題解決



エージェント (Agent)

タスクの割り当てと実行



自律性 (Autonomous)

プロジェクト全体の
自律的完了 (24/7)

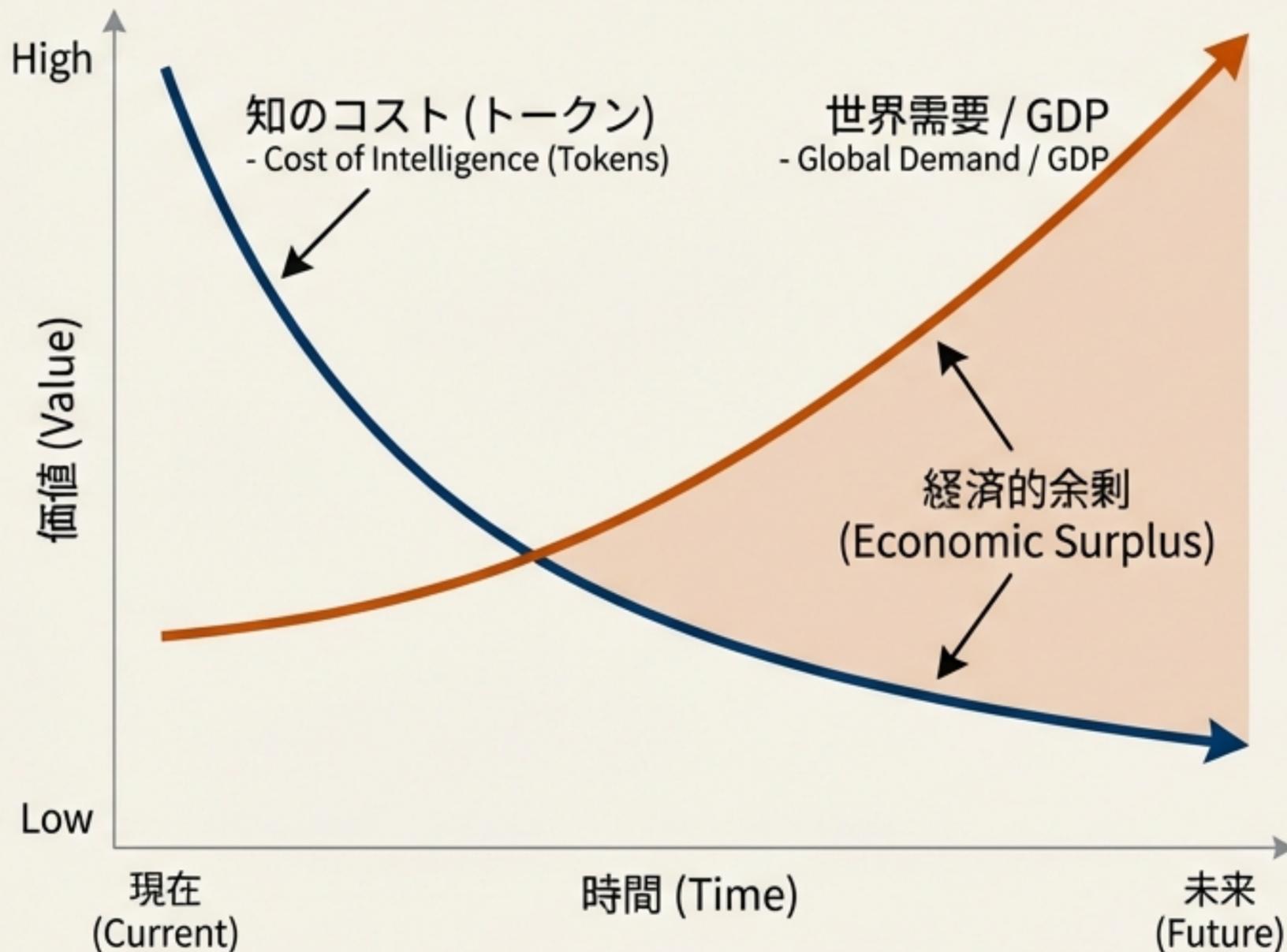
人間の主体性 (Agency) は失われません。AIは文書、ウェブサイト、アプリを相互に変換可能な流動的なリソースへと変えます。

新的コモディティ：トークン・ドル・ワット

Noto Sans JP Slate Grey (#708090) could be i/or previous slides

経済成長の方程式:

インテリジェンス (トークン) を電力 (トークン) と電力 (ワット) とコスト (ドル) に対してどれだけ効率的に生成できるか。



現状と目標:

- トークンの価格は3ヶ月ごとに約半分に低下中。
- 知能のコストを劇的に下げることで需要を喚起し、それを経済成長へと変換する。
- 「生産性のカーブを曲げる (Bend the curve)」

テクノロジーへの称賛から、実質的な「余剰」の創出へ

BEFORE



14兆ドルの資産データの計算

所要時間：12時間

AFTER (AI Enabled)



AIによる推論と処理

所要時間：数分

⚠ 社会的許可 (Social License) :

エネルギー資源を消費する以上、ヘルスケア、教育、公共部門での効率化という明確な成果が不可欠です。

定義：余剰 (Surplus)

AI技術そのものを称賛する段階は終わりました。重要なのは、それが人々の生活、コミュニティ、国家に有用な結果 (余剰) をもたらしているかです。

Grounded Editorial

組織の反転：情報の流れと階層構造の再設計

従来の階層型 (Traditional)



AI型 (Networked)



情報が組織内をフラットかつ自由に流れるようになります。
これに合わせて、従来の部門や専門性の枠組みを再設計する必要があります。

Grounded Editorial

変革の方程式：マインドセット × スキルセット × データセット

Mindset × **Skillset** × **Dataset** = **Productivity**

マインドセット (Mindset)

- ワークフローを変える意思。
- 単なるツールの導入ではなく、仕事のやり方そのものの変更。

スキルセット (Skillset)

- AIを信頼し、使いこなす能力。
- ガードレールの設定と「使わなければ信頼も生まれない」という理解。

データセット (Dataset)

- コンテキスト・エンジニアリング。
- 組織内の「暗黙知 (Tacit Knowledge)」をAIに与え、文脈を持たせる。

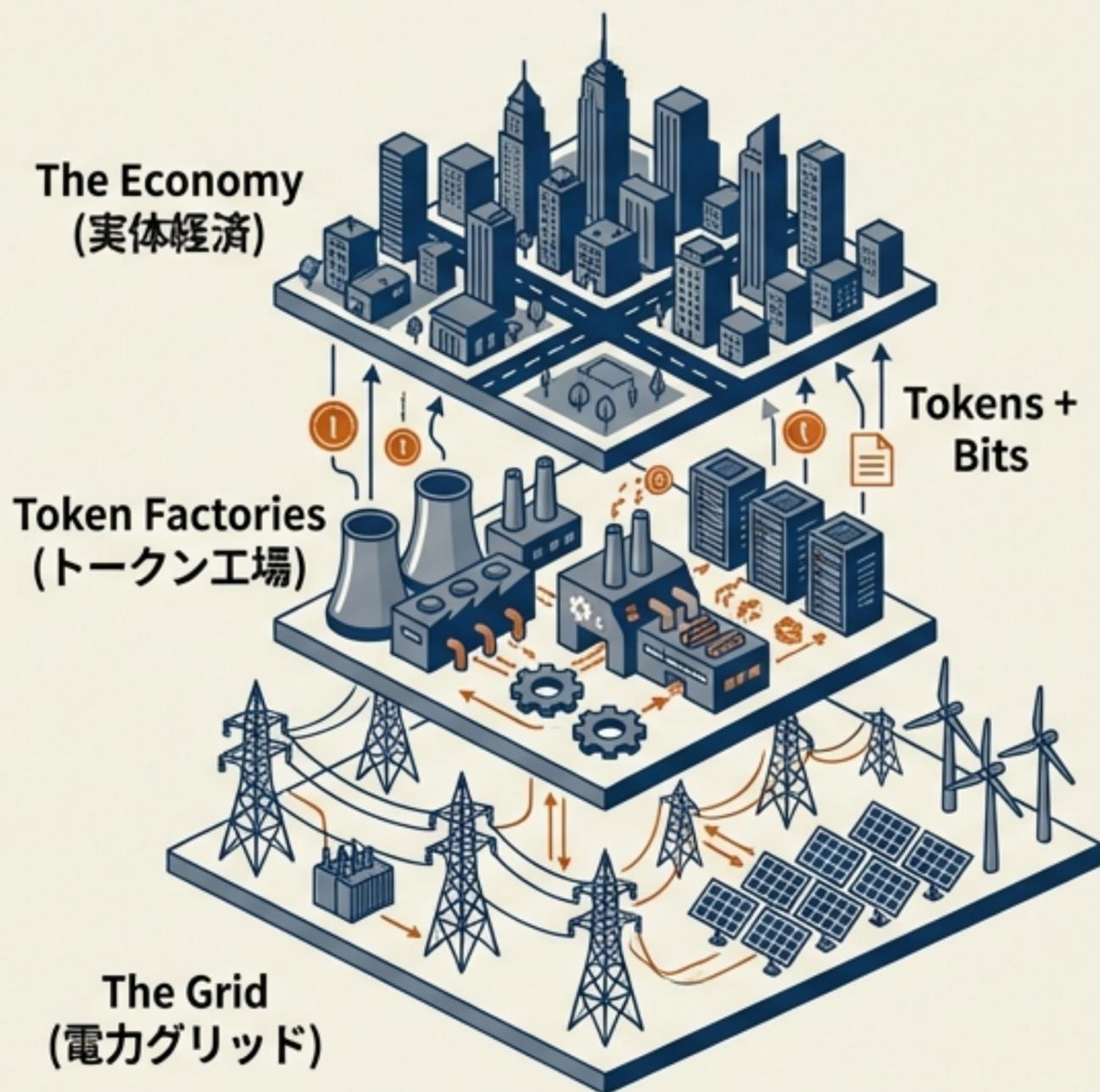
J-カーブの現実：これら3つが揃うまで、生産性の向上は遅行します。変革には「ハードワーク」が必要です。

Grounded Editorial

インテリジェンスのインフラ：「トークン工場」と電力グリッド

物理的な現実 (Physical Reality):

- データセンターは、電気と同様に世界中に普及すべき基礎インフラです。
- エネルギー網（グリッド）の刷新なしにAIの普及は不可能です。これは公共投資が不可欠な領域です。

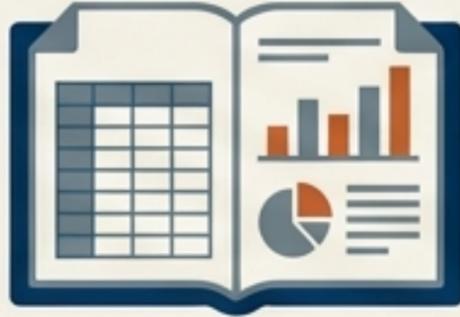


スケーラビリティ (Scalability):

- 通信網と電力網に接続し、実体経済の一部として「トークン」を提供するスケーラブルなアプローチが必要です。

世界的な格差の解消：消費から生産への回帰

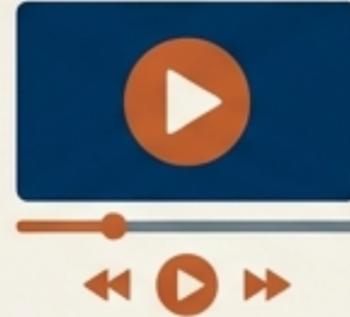
PC時代 (The PC Era)



Focus:
生産 (Production)

Outcome:
スキルが「就職」に直結。

モバイル時代 (The Mobile Era)



Focus:
消費 (Consumption)

Outcome:
クリエイター経済中心。
専門職へのパスは限定的。

AI時代 (The AI Era)



Focus:
生産 + アクセシビリティ
(Production + Access)

Outcome:
職業的価値 (ヘルスケア、
金融、農業) の民主化。

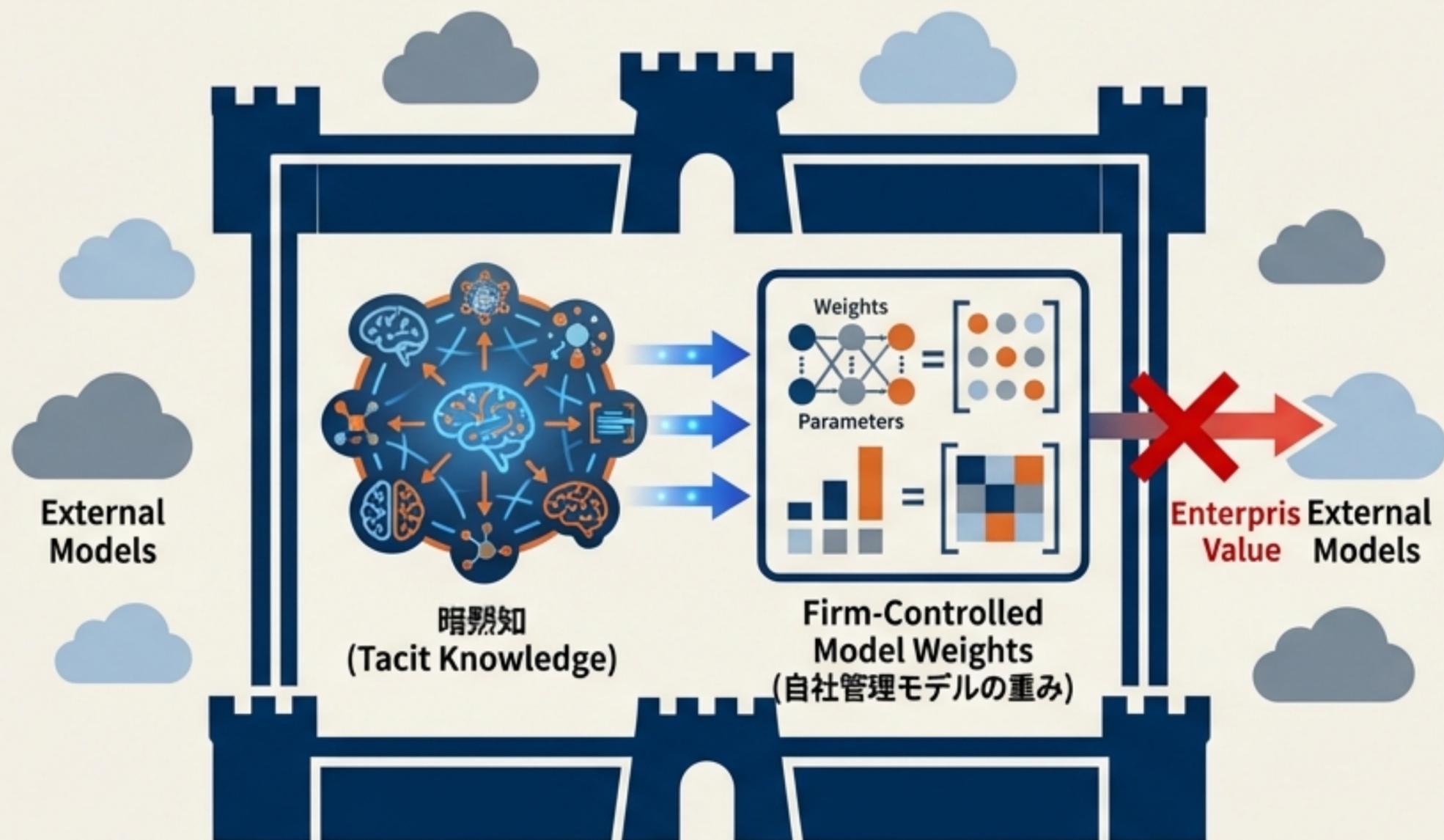


事例：インドの農家

現地の言語で補助金制度についてボットと対話し、複雑な申請手続きをAIエージェントに完了させる。これが真のエンパワーメントです。

Grounded Editorial

主権の再定義：「データの主権」から「企業の主権」へ



真の主権 (True Sovereignty):

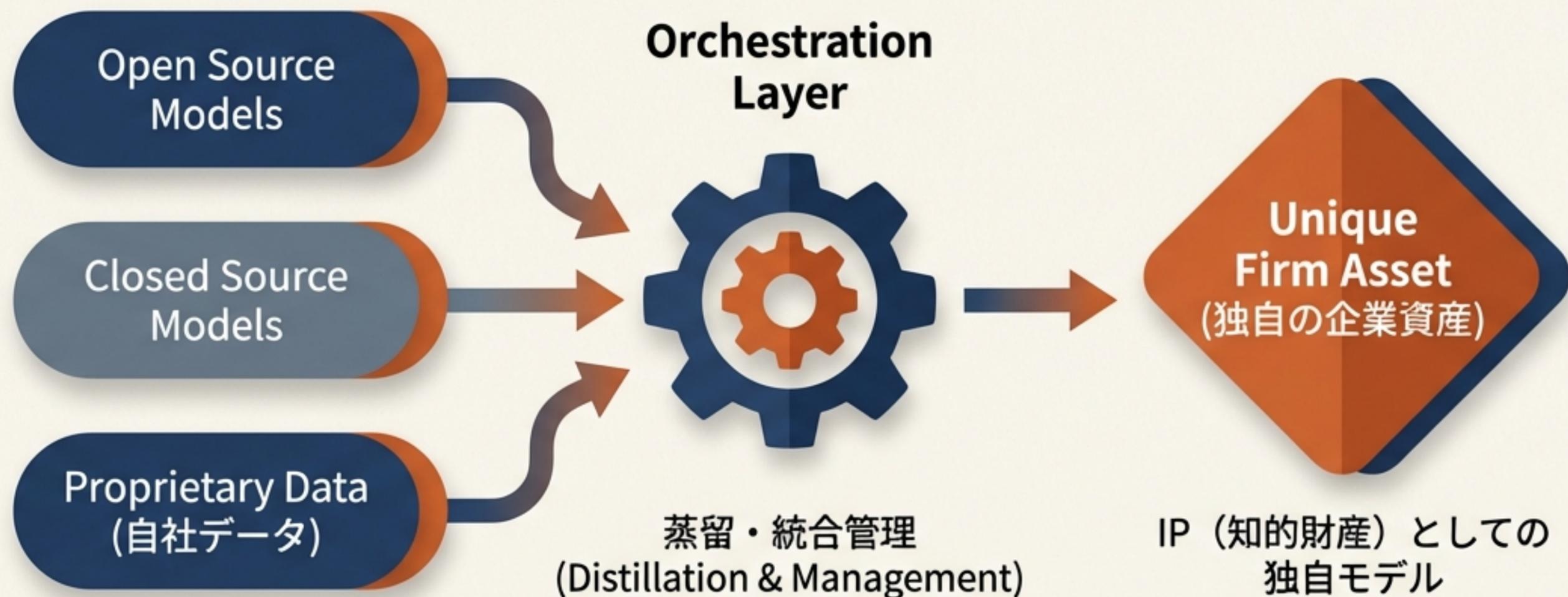
AI時代における主権とは、企業の「暗黙知」を、自らが管理するモデルの重み (weights) に埋め込むことです。

リスク (The Risk):

独自の知識を外部のモデルプロバイダーに依存することは、エンタープライズバリュー (企業価値) の流出を意味します。

戦略的命題: データの保存場所よりも、「自社独自のモデルをコントロールできているか」が重要です。

マルチモデル・ワールドとオーケストレーション



「すべてを支配する単一のモデル」は存在しません。

勝者は、複数のモデルからの出力を蒸留し、自社のデータを文脈として供給することで、独自の資産を構築する企業です。

結論：勝者は「普及（Diffuse）」させる者



テクノロジーの作成者ではなく、活用者が勝つ

The winners will not be the technology creators, but the organizations that diffuse it the fastest.



バブルか否かの分かれ目

局所的な設備投資（CapEx）ではなく、世界中で生産性のカーブを曲げ、広範な経済的余剰を生み出すこと。



Call to Action

あらゆる場所に余剰（Surplus）を。